



1 レジ袋をもらわずにマイバッグを使用する

日本では年間約300億枚使われるといわれているレジ袋。これは、1人が1日に約1枚、年間約300枚使う計算になります。

2 野菜は地元産のものを買う

食品の輸送には二酸化炭素の排出が伴います。地元の産物を買えば、二酸化炭素の少ない生活につながります。

3 必要なものを選んで買う

賞味期限が切れてしまった食品、あまり使わない洋服や雑貨などは、お金を出して買ったにもかかわらず無駄になってしまいます。買う前に本当に必要なものかどうかを考えましょう。

また、エコマークやグリーンマークなどの環境ラベルが付いた、環境にやさしい商品を選んで買いましょう。



地球温暖化を防止するために

地球温暖化を防止するためには、私たち一人ひとりが日々のライフスタイルを見つめ直すことが何よりも大切です。

今月は「環境月間」です。6月5日の「環境の日」をきっかけに、環境にやさしい暮らしを心掛け、未来の行田のためにできることから始めてみましょう。



ごみがなぜこんなにも出てしまうのか、疑問に思ったことはありませんか。コップ、容器、割り箸など、私たちの生活の中には使い捨てのものが溢れています。

これらの他に多いのが食べ物です。食べ残しや料理くずなどが生ごみとして各家庭から出され、大量に焼却されることにより二酸化炭素が排出されてしまいます。食べ物は必要な量だけ購入し、残さず食べるようにしましょう。

4R ごみを減らすために 4Rを実践してみましょう

リフューズ(Refuse) ごみの発生を抑制する

不要なものを買わないようにしたり、マイバッグを持参し、レジ袋をもらわないようにする。

リデュース(Reduce) ごみの減量

詰め替え商品や長く使えるものなど、ごみが出にくい商品を選んで購入する。

リユース(Reuse) 一度使ったものを繰り返し使う

使えるものはフリーマーケットや市の不用品登録制度を利用し、再使用する。

リサイクル(Recycle) 資源として再利用する

ごみを再資源化して利用する。資源物として、缶(スチール、アルミ)、瓶、紙、古衣料、布類に分けて収集する。

クイズの答え

①約7.3%

意外と消費していますね。コンセントからプラグを抜くのが面倒というあなたにはスイッチ付きタップがおすすめです。

②約4時間

4時間を超えると、電気炊飯器で保温するよりも電子レンジで温め直した方がお得です。

家庭の電気・ガスダイエット

エコライフに取り組んで
豪華商品をGETしよう

埼玉県では、夏季の省エネを推進するため、電気やガスの使用量削減に取り組んだ成果を応募すると、抽選などで賞品が当たる「家庭の電気・ガスダイエット」を実施します。

応募用紙に7月または8月分の電気・ガスの検針票を貼付して、次の送付先に提出してください。

▶ **申し込み** 環境課で配布または県ホームページ(<http://www.pref.saitama.lg.jp/page/h25diet.html>)よりダウンロードできる応募用紙に必要事項を記入の上、9月20日(金)までに郵送またはFAXで申し込みください。

【郵送】〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和5-6-5 家庭の電気・ガスダイエット実行委員会事務局(認定NPO法人環境ネットワーク埼玉内)

【FAX】048-749-1218

▶ **問い合わせ** 埼玉県環境部温暖化対策課総務・エコライフ推進担当 ☎ 048-830-3038

春の叙勲

このほど、春の叙勲の受章者が発表され、行田市からは新井忠晴氏、長谷川志づ枝氏が旭日双光章、小暮惇夫氏が瑞宝双光章に、山澤民弥氏が瑞宝単光章を受章されました。また、危険業務従事者として、佐々木勝治氏、佐々木正廣氏、松島弘氏が瑞宝双光章に輝きました。

旭日双光章



新井 忠晴氏
(71歳・桜町)
県乗用自動車協会副会長

旭日双光章



長谷川 志づ枝氏
(72歳・行田)
県母子寡婦福祉連合会長

瑞宝双光章



小暮 惇夫氏
(77歳・城西)
元行田市収入役

瑞宝単光章



山澤 民弥氏
(70歳・矢場)
元行田市消防団分団長

瑞宝双光章



佐々木 勝治氏
(70歳・西新町)
元警視庁警部

瑞宝双光章



佐々木 正廣氏
(71歳・持田)
元県警視

瑞宝双光章



松島 弘氏
(71歳・持田)
元警視正

今村武蔵氏が「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰を受賞

4月25日、自然環境の保全に関し、顕著な功績があった今村武蔵氏(持田)が、平成25年度「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰を受賞し、工藤市長へ報告に訪れました。

今村氏は、NPO法人ふるさと創生クラブの代表として「水辺のビオトープ」を造成し、小学生を対象とした体験学習を実施した他、行田市森づくり環境再生実行委員会委員長として1万本以上の植樹を行っています。その他、行田市民大学副理事長として自然環境の調査や改善案を提示するなど、自然環境の保全意識の向上に大きく貢献していることが高く評価され、受賞したものです。



▼問い合わせ 都市計画課公園担当 ☎50-1550